

者副以七寶臺七寶臺內也玻璃蓋七寶臺外也可謂摩尼謂之寶長在處衆寶悉集焉且又妙典說云無上寶聚不求自得金言可徵矣集以大成異哉慶幸之甚蔑以加焉可嘉可尚矣竊按漢史順帝朝孟嘗伯周任合浦守宰爲人道德清行革易前弊去珠復還孟嘗伯爲合浦官令時復寶珠悉還也於他海或時去來可見之稱爲神明千古義事昭昭於簡冊矣今也久秀德行所化寶壺如意珠一去復還玄又玄奇又奇不意日域海隅復覩合浦孟伯周焉秦始皇帝聞倭國有蓬萊仙島遣來徐福求長生藥徐福至于南紀之金峯止于東駿之富士指此等地以爲蓬萊蓬萊方壺皆爲神仙一靈境也當世韻人佳士靡然嗜陸桑芋盧玉川之事業家家人人貯蓄十器一陶晞顏芋翁慕蘭川子川子嘗作茶歌歌云六椀通仙靈七椀蓬萊在何處焉茶是仙家瑞草也公官暇日兵衛畫戟燕寢清香與佳客會飲賞味壺中仙葩茶異名也終日清談消遣世慮兩腋習習身裏七十蓬萊三萬弱水不移步而自至山頂延壽還童顏色如桃花者必矣然則此一壺者如意上上寶珠也世間綺羅珍玩縱使積齊北斗以可塵視塊看焉珍重至祝松氏需予記一事予痴兀退衲不肯措片詞命侍史穎也漫記之

時永午夷則如意珠日萬年龜洋派下巢葉賴安叟

〔長閣堂記〕其比小紫といふ茶入金子百枚なりしを秀吉公より筒井順慶に所持あるべきよして求給ひし此代金今の世にしては纔なれども其比順慶御身上にて尤出かね侍るよし取沙汰有かくの如き世の空疎にして此道を重んじたしなむ事思ひやるべし

〔茶窓閒話上二〕瀧川左近將監一益が臣津田小平次は先手の隊長をうけたまはり武功無雙の士なり後隠遁して幸庵と稱すかねて老後のたのみにして家に秘藏したる茶具三種あり所謂中山の茶入紀三井寺の茶碗黒木のがけものなり此内中山の茶入といふは細川幽齋法印の御遺愛なりしが故ありて幸庵の所持となれり其北京に住て茶事のみにてくらしける或時細川三齋を請待せしに三齋には日比此中山をふたび家にかへし度思ひ給ひしかども幸庵拜領